

きれいな川・緊急討論集会 報告

1月7日（土）、「豊島（てしま）の汚染土壌持ち込みを考える」をテーマとした集会在和邇公民館であり、雨模様の夜にもかかわらず35名の参加がありました。

まず、本会理事長から和邇川上流のY砂利（株）へ香川県豊島の汚染土壌を持ち込むことになった経過と、大津市・香川県の対応、連合自治会の取り組みなどをスライド・新聞資料を使った説明がありました。その中で「私を含む住民はインターネットで偶然、計画を知った。大津市に確認すると『香川県からそう聞いている』という返答で初めて明らかになった。情報の公開もせず、法律の妥当性も検討せず、住民の目線で問題に向き合おうとしない大津市の市政に大きな不安を感じる」と訴えました。



参加者からは「連合自治会が香川県に対して要望書を提出するなど動いてくれているが、一般住民にはその内容が十分伝わっていない」「この問題は和邇川流域のみならず、琵琶湖の水で生活する近畿圏1400万人すべての問題だから、広く訴えていかねばならない」「大津市の副市長が住民の要望書を香川県に持っていったというが、大津市として住民の安全を守る姿勢が全く感じない」「トンあたり約6400円で落札したというが、この価格は運送費だけでほぼトントン。将来、全国から同様な汚染土壌を持ち込む先駆けではないか」「琵琶湖の水ガメを預かる滋賀県民・大津市民として、このような計画は許してはならない」など、この計画に許可を与えた大津市に対する強い抗議が出されました。

当日、参加された澤田たか子県議員は「地域の環境や住民の安全を守る皆様の活動に心から感謝している。県や市に対しても情報公開を求め疑問を追及していきたい」と語り、弁護士の越（こし）直美氏は「この話を聞いてひどいと思った。大津市には事業者の監督責任があり、それをしっかりやらせるように働きかけていきたい」と語られました。